

留学報告書

都市工学専攻 都市デザイン研究室

修士 瀬川明日奈

2014年2月1日から2015年1月31日までデルフト工科大学の建築学部に交換留学生として2学期間在籍していた。前期はランドスケープを、後期はアーバニズムの授業を履修し、1年間の留学期間を終えた。

1. 留学準備

語学

大学院試験に提出した TOEFL iBT のスコアでは応募基準の 90 点を満たしていなかったため、6 月末に再度 TOEFL を受験した。7 月中旬には結果が届き、基準を上回っていたため、そのスコアを提出した。特別な TOEFL 対策はしていないが、通学時に吹き替えなしの海外のドラマや映画に英語字幕をつけて観賞し、リスニングとボキャブラリーの強化をはかった。また、積極的に研究室内の留学生との英語でのコミュニケーションを行った。留学先では英語でコミュニケーションをはかれることが日常生活でも学業においても前提にあるので、単に TOEFL のスコアを伸ばすためだけの勉強をするのではなく、問題なく現地で生活するためには、英語でのコミュニケーションにある程度慣れてから、渡航する必要がある。

生活

デルフト工科大学に留学された経験のある方や、オランダに住んでいたことのある方に先生を通して紹介していただき、実際にお会いしたり、またメールのやりとりを通じたりしてオランダの生活や授業についての情報を収集した。しかし、どんなに色々な方にお話を伺っても、根本にある漠然とした不安は解消されないままだった。当たり前だが、どんな場合でも実際に現地に行ってみないと分からないし、自分が体験しないと、事前にアドバイスしていただいたことも活かすことはできない。また、オランダ人のほとんどが英語を喋られるので、分からないことがあれば現地で周りに聞くことが一番手っ取り早かった。

食事

食事は基本的に自炊し、お昼もよほど忙しくない限りはサンドイッチや夕飯の残りなどをタッパーに詰めて持参した。大学敷地内の中心にある量以外は、基本的に徒歩圏内にスーパーがあるが、週末は 18 時に閉まる場所が多いので、時間には注意しなければならない。また、外食はその時の為替レートによるが、日本に比べると若干高く感じた。

自転車

オランダは自転車スケールでまちが形成されており、自転車の購入が不可欠である。自転車道がそこら中に整備されているが、交通量が多いので、安直に安全だと言い切れない。また、新品の自転車を購入すると、盗難に遭う確率があがるので、中古の自転車を購入する必要がある。渡航前に、現地に知人がいる場合は聞いてみる、SNS 上のコミュニティに参加するなどしておく、到着後の生活がスムーズになる。

住居

住む部屋は事前に DUWO を通して申請した。留学生の中には、自分で下宿先をネットで探し、面接が必要な場合は Skype を介して行い、DUWO の価格設定よりも少し安い部屋に住んでいる人もいた。DUWO は多くの留学生が利用し、渡航前でもあまり心配することなく部屋探しができる一方、選択肢が少ない・手数料や家賃の設定が高いという意見もある。自力で探したい場合は Kamersnet.nl などのサイト(オランダ語なので google translate などで訳す必要がある)を通じて、部屋探しをするという手段もある。

2. 留学期間

学業

前述した通り、今回の留学期間では前期にランドスケープ、後期にアーバニズムのコースの授業を履修した。どちらのコースもスタジオの設計課題が大部分の ECTS を占め、その他に 1～2つの講義があるという構成だった。ランドスケープではロッテルダム北部にある低地部の水システムを考慮しつつ、そこに新たなレクリエーションを追加する提案や、軍用跡地である要塞を転用のためのプログラムと空間の提案などを行った。アーバニズムでは、人口が増加中のオランダ郊外都市の問題発見、解決のための提案や、ロッテルダム北部の住宅地の問題を見極め、それに対してサステナビリティを考慮した住宅地の提案などに取り組んだ。どちらのコースも、オランダ人が三分の一から半分程度、その他は各国から来た学生で構成されており、とても国際的なグループで、考え方やアウトプットも個々でまったく違っていたのが興味深かった。スタジオの敷地や課題によって、それぞれの取り組み具合、モチベーションは様々だったが、どれも日本にはないような敷地や問題を扱っていた。先生とのエスキースでも突飛なアドバイスがあったり、でも論理性を常に求められたりと、日本とは異なる学習環境で学ぶことができて、大きな経験となった。

デルフト工科大学ではゲストレクチャー、建築・都市に関する映像の上映会、ワークショップ

などが頻繁に行われる。また年に一度“Urbanism Week”という、集中的に都市に関するワークショップやレクチャー、ディスカッションが開催される週があり、そういった授業以外の時間に、普段とは異なる視点や刺激を与えてもらえる機会が多々あった。

学外

当然、日本にいる時より自分のソーシャルコミュニティが少ないので、時間に余裕ができる。私は運動不足解消を目的に、大学のフットサルチームに所属した。オランダでは男女ミックスというチームはなく、男女できっちりわかれていて、女子でも3、4部ほどフットサルリーグがある。ただ私の所属していたチームの人数が少なかったため、練習時はいつも男子学生と混ざって練習していた。

公共交通機関

OV-Chipkaart という日本でいう Suica のようなカードがある。無記名のものと記名の2種類があり、たとえば記名だと事前に申請すれば一定の時間帯で電車賃が4割引になるなど、様々な細かい違いが存在する。ただ記名の場合、現地の住所が必要になるので、申請に時間がかかり、すぐには入手できないなどと色々弊害もある。これらもデルフト到着後に留学生同士で情報を交換しあったり、オランダ人に聞いたりと少しずつ情報を集めながら、最終的に3月上旬頃に調達した。

旅行

EU 外から来た生徒にとって、気軽にヨーロッパの他の国に旅行することができるというのは非常に魅力的である。私の場合、夏休みだけでもポルトガル、スペイン、イタリア、フランス、スウェーデン、ハンガリー、チェコ、オーストリア、ベルギーと、ヨーロッパ中を旅行して、様々な建築・都市をみることができ、とても充実した夏休みとなった。日本に一時帰国する飛行機代と同じぐらい(あるいはそれ以下)の費用でたくさんの場所を訪れることができるので、もし予定されているなら一時帰国などせず、この1年間を活用して、より多くの場所を訪れるのも、選択肢としては悪くないと考える。交通手段としては、安価な LCC や、InterailPass、Blabla Car、バスなど様々にあるが、どれも時期が近づくほど価格が大幅に上がるので、数ヶ月前から、早めに計画し予定を立てることを推奨する。宿泊場所は大学で知り合った友人や日本からの知人・友人の家に泊まったり、ホステルの大部屋に泊まったりしていた。

3. 留学期間終了後

インターンシップ

留学期間中に、クラスメイトなどから、時には授業よりもインターンシップで学ぶことの方が
多いこともあると聞いたので、私もこちらの都市デザインやランドスケープの設計事務所にて
インターンシップの経験をすることに興味を持った。私はしっかりとしたポートフォリオがな
かったので、ポートフォリオの作成を0から始めなければならなかった。しかし学期期間中は
課題に追われて、なかなかまとまって時間をとれなかったため、最終的にポートフォリオが出
来上がった時には、すでに1月上旬を迎えていた。私の留学期間は1月末までだったため、帰
国までに返事がもらえないことも承知の上で、10ヶ所ほどの設計事務所にインターンの空きが
あるかどうか問い合わせをし、必要であればポートフォリオと履歴書を送付した。結局、2月の
中旬に1つの設計事務所から受け入れの返事をいただき、2月中旬から働くことになった。ま
た、同時にオランダでの滞在許可を延長するためにアムステルダムにある夜間の建築学校に編
入することにした。返事をいただいてから1週間ほどの期間で、事務所にポートフォリオを持
参しての面接や、建築学校の編入の手続き、次の家探しなどを行った。慌しくはあったが、な
んとかすべて済ませ、インターンシップと新たな学校での生活を始めることができた。

就職活動、研究活動

オランダにおいて、就職活動や直接的な研究活動は行っていない。帰国後、研究に役立ちそう
な事例を訪ねにドイツまで赴くなどしたが、本格的な研究・執筆は帰国してから再開する予定
である。また、就職活動も、帰国後、国内企業を対象に行っていきたいと考えている。